



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

こほく・あらき ふれあいカリキュラム～湖小・2年生 「町のきらり ひろがれ」

湖北小学校2年生が生活科の時間でオリジナルカリキュラムに位置付けた授業を実施しました。単元名を「町のきらり ひろがれ」と題して実施した町探検での成果を、最後にまとめとして発表するための計画を児童が自分たちで考えるという本時の授業でした。

最初に授業者から、本時の学習内容と目的について丁寧な説明があり、学習課題「町探検発表会の計画を立てよう」が板書されました。児童たちの机上には、町探検で使用した「訪問した施設等で発見したきらり」について記入したシートがファイルに整理され置かれています。



続いてA～Gまでの発表グループと発表する施設等について確認し、ワークシートが配布されて児童は自分のグループと発表施設等を記入。授業者からは、「計画を立てるにあたって誰に聞いてほしい（伝えたい）？」との問いかけがありました。児童たちは活発に挙手をして発表、「2年生」「お店の人」「一緒に行ってくれたお家の人」など、多くの意見が出て盛り上がりいました。

さらに授業者が「どんな方法(やり方)で伝える？」と問い合わせ、まずは授業者が支援しながら学級全体で意見を出し合います。児童からは、「絵」「カード」「写真」「紙芝居」等々こちらも多くの意見が活発に発表され、教室は活気に溢れています。授業者は出された意見を板書して整理、グループにするよう指示し、改めて「伝え方を考える」こと、そして「伝え方を決める」ことを課します。児童たちは、グループごとで身振り手振りを交えながら、夢中になって自分の意見を一生懸命に主張している姿が印象に残っています。全体で考えたこと以外にも「劇にする」「町探検ブックを作る」「手紙を書く」さらには、「大きな紙に絵や写真、地図、文字を書く」といったポスターーションをイメージしているような意見もありました。

最後は班で決めた「伝え方」をマジックで紙に書いて班の代表者が発表し、終了となりました。こういった学習を通して失敗も含めた経験をしていくことで、自分で探究して課題を解決する力が成長段階に応じて身についていくのではないかと考えます。中学校を目指す生徒像の第一歩としても有効な授業でした。

湖北台未来へつなぐプロジェクト～東小・4年「クリーンセンター見学」

クリーンセンターの広い部屋で大きなスクリーンに映った動画を視聴しクリーンセンターの仕組みやごみ処理について学んだ後、実際に様子が見える窓から見学しながら、可燃ごみの処理について順を追って説明を聞きました。廊下から大きな説明パネルを読んだり、見たこと聞いたことを熱心にメモを取ったりする児童がたくさんいました。また、質問が



あれば、積極的に尋ねていました。最後には、自分の生活を振り返ったり、未来の生活について考えたりと、「湖北台未来へつなぐプロジェクト」の学習への動機づけとなる学習活動でした。外に出ると、ごみ処理場特有のにおいがあるかと思いましたが、管理が徹底されており、いやなにおいではなく、児童は快適に見学をすることができました。教師による事前指導と事後指導を大切にして、この学習が単なる社会科見学に留まらず、小中一貫した学びにつながることを期待しています。

令和7年12月4日

我孫子市小中一貫教育だより
第397号